様式第４号

先 進 地 調 査 等 報 告 書

平成 30 年 7 月 31 日

天 童 市 議 会 議 長　様

会　派　名　政和会
代表者氏名　後　藤　和　信　印

下記により、会派において調査（視察）が終了したので報告します。

記

期　　　　間	平成 30 年 7 月 9 日（月）から平成 30 年 7 月 11 日（水）まで
調査（視察）先 調　査　項　目	北海道　東川町 「移住・定住促進で人口増の取り組みについて」 北海道　幌加内町 「そばの文化と産業の育成について」 北海道　滝川市 「市立図書館連携事業について
調査（視察）目的	東川町・　近年で 1200 人の人口増に対する取り組みについて 幌加内町・そばを活用した 6 次産業の育成について 滝川市・多目的な施設として市役所内に設置された図書館について
市　政　と　の 関　　連　　性	東川町 天童市では人口の減少にある。どのようにして移住定住を促進したかは今後の取り組みの参考になる。 幌加内町 そばは食べることが主流の文化であるが、そばをその他の分野でどのように活用していっているか。 滝川市 市保有の施設を多目的に使用していることから、天童市でも今後パルテ、図書館・美術館との連携した取り組みの参考となる。
調査（視察）内容	東川町　　（写真のまち、上水道がない町としても有名） 「移住定住促進で人口増加の取り組みについて」 ○平成 5 年から現在まで 1200 人の人口が増加している。町内は自然環境が豊かで上水道がない町（水道料金がただも魅力）としても知られている。 ○移住定住促進政策として景観住宅建設支援事業など多くの政策を実施し、積

	極的な取り組みで若い世代の U ターンなどで人口の増加が図られていた。外国人（326 人）も暮らしている。 起業家支援制度について ○新規起業者への支援（平成 15 年~)、産業振興支援条例（平成 20 年～）などで新規の事業を立ち上げる方（町内、町外）を支援した結果、現在まで 95 の起業家支援の実績があった。 君の椅子事業について ○旭川大学の磯田憲一教授がゼミで「誕生する子供を迎える喜びを、地域の人たちと分かち合いたい」そして、誕生した子供に、「君の居場所はここだよ！と“、家族の愛に包まれ、健やかに育ってほしい」と町長に持ち掛けて実現している。町内の旭川家具に相談して製造をしている。平成 26 年度より実施している君の椅子には年間 300～400 万円の事業費。 ○椅子にはお祝いの言葉と生年月日と名前が刻まれている。毎年椅子のデザインは変わり、子どもにとっては使用する期間が短いかもしれませんが一生の宝物になってもらえればと町長が語っていた。　一脚 3 万円。 ○平成 27 年にはサントリー地域文化賞を受賞している。 ふるさと納税に対する助成制度について ○ふるさと納税が創設された時から「寄付」を「投資」、「寄付者」を「株主」ととらえて株主制度を創設した。 ○事業内容、目標金額、期間などを明確にし、株主は投資したい事業に投資（寄付)。新規投資事業を追加する際は HP.メールそして株主総会を通して報告。 ○株主には株主証、特別町民認定証を贈呈。公共施設を町民価格で利用、株主限定のサービスの提供などの特典を実施している。 ○「ひがしかわ株主総会」H29 年度の実施では参加者 110 名　道内 48 名　道外 62 名が参加している。道外からの参加者には航空券の補助 2 万円が支給されている。 ○新たな事業も積極的に実施。株主が町内で買い物をするとポイントがたまるカードの発行など。 幌加内町 「そばの文化と産業の育成について」 そばの歴史について ○かつては「過疎のあだ花」と揶揄される作物であったが、昭和 45 年から始まった米の生産調整で積雪期間が長く農作業期間が短いことなどから、短期間に収穫される、大規模化が可能なそばの栽培を始めた。 ○そばの作付面積、生産量ともに日本一になっている。 そばを活用した 6 次産業の育成について

	○そばの栽培だけで生活が成り立つことから、リスクを背負っての６次産業に対する意識は低いが、クッキーなどの商品化が図られていた。 ねむりゆきそばについて ○玄蕎麦を低温熟成後、冬季間玄蕎麦を雪山に半年間眠らせることで蕎麦のうまみ成分が増加して美味しいそばができる。地域限定こだわりの蕎麦として各店一日 20 食限定で販売されている。 滝川市 「市立図書館連携事業について」 図書館が市役所内に移転した経緯について ○町村合併に伴い市役所を新築したが合併がなくなり、市役所内に大きなスペースが生まれた。旧図書館は公共交通がないなど立地条件が悪く利用者が非常に少ない状態のあった事から、利用者の利便性などを考え市役所２階に移転を図った。市民の利用者増が急速に進んできている。 新図書館の特徴と連携事業について 企画展示 ○愛しの表紙絵（カバージャケット）たち。読書感想文のすすめ！　ツタヤ滝川店との連携で相互にコーナーの設置。BOOK セラピー～あなたを癒す処方箋～。子ども読書週間事業展示など。 読書普及行事 ○絵本のおはなし会。朗読会。ブックスタート。絵本作家によるトークショー。夏の「こわ～い」おはなし会（市内の寺院で実施）。 行政との連携 ○行政情報の展示。消費者センター情報の展示。マラニック、たきかわ菜の花祭りなど各課が取り組んでいる事業を紹介。 民間との連携 ○生きている証～その瞬間（とき）を綴る～（滝川青年会議所） まちなか連携 ○まちなか連携企画「まちなかコンシェルジュ」を通年開催（まちなかのお店や団体を毎月紹介）。 地域連携 ○雑誌ささえ隊　取り扱い雑誌が 129 誌、その中で雑誌スポンサーとなって頂いているのが７２誌（雑誌の裏表紙をスポンサーの広告を掲載）。 メディアとの連携 滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール ○小中高の３部門で開催、応募総数 111 点で各部門の優秀作品３点を全国コンクールに推薦。 学校連携（子供向け図書館事業を含む） ○小中学校 10 校へ年４回図書館が運搬、年間 21,650 冊貸出。 ○読書アルバム　100 冊まで記入できるアルバムを全小学校に配布、100 冊ごとに表彰、500 冊以上で教育長の表彰（副賞付）。100 冊達成者：493 人、50

	冊達成者：23 人、1000 冊達成者：6 人、2000 冊達成者：1 人。 〇中学校のおすすめ本　授業の一環として、POP 作り講師として司書を派遣。 〇國學院大學北海道短期大学部連携　相互連携協定を締結。 障がいのある方や高齢者へのサービス 〇広報拡大版、声の広報、高齢者施設への出張読み聞かせ。 連携と情報発信で 来館者平成 22 年度は 37,000 人　29 年度は 129,542 人に急増。	
市政の課題への参考等	東川町 　ふるさと納税をしていただいた方を株主として登録していただき、株主総会を実施して町内に招き入れている。（道外からの参加者には 2 万円の補助金）天童市でも制度を創設して、ふるさと納税をしてくれた方を市に招くことでさらなる信頼関係の充実が図られることが期待される。 幌加内町 　天童市内の大手のそば店がそば粉を購入している。また、新成生という集落は明治時代に市内の成生地区から移住している事を考えると将来の友好都市としての取り組みも期待される。 滝川市 　市役所内の２階に図書館を移転することで大きな利用者の拡大が図られたことから、各施設を複合的に利用できるシステムの構築ができるのではないのか。図書館と美術館、パルテを文化施設の拠点施設としてまた教育委員会の移転の検討できるのではないのか。	
参加者の感想等	参加議員氏名	感　想　等
	後藤和信	東川町 〇近年で 1200 人の人口増が図られたことは非常に驚きがあった。町内の環境の良さ、水道料金がただ、移住の促進に対するきめ細やかな対応が若者に対して受け入れられていた。 〇ウッドファーストの取り組みの一つとして、生まれた子供に対して君の椅子として、誕生日と名前が刻まれている椅子が新生児にプレゼントされている。値段が一脚 3 万円と高額なのは残念。 〇ふるさと納税をしてくれた方をまちの株主として、株主総会を実施し、町内に招待することで町内の良さを再認識していただくことと地元の産業の振興にもなっていた。 幌加内町 〇町内のそばの作付面積が平均４０ha で、年収が約 1000 万円+経営所得安定対策補助（約 12 億円が町に）。

様式第４号（２／２）

		○若者が U ターンしてそばの栽培をする者が出てきていることが大きな期待感である。 ○年間 6 か月間農作業が雪のためにできないのが現状にあった事が蕎麦産業の育成につながってきていた。 ○ねむりゆき蕎麦（冬季間雪の中で熟成された蕎麦）の通年食べられないのが残念。 ○幌加内高校でのそばの取り組みとして「そば授業」を実施し、段位認定などで人材の育成をしてドイツのそば店に２名の生徒がヘッドハンティングされた。 ○同高校ではそば料理のレシピ集の作成やそば菓子の生産販売もやっている。 滝川市 ○公共施設の多目的利用が図られていた。図書館は利用しやすい場所や展示の工夫で利用者が急増していた。 ○市民が利用し易いような展示と細分化された分類で探している本がすぐにわかるような工夫がしてあった。 ○図書館内に行政情報や民間との連携を密にした情報が展示されていることは市民目線の新たな取り組みと感じた。
	松田光也	東川町 １．　移住定住促進で人口増の取り組みについて 東川町は、北海道の中央部に位置し、旭川市に隣接する一方で、自然に恵まれ、北海道で唯一上水道が無い町です。日量 6,600t の伏流水が湧き出ており、環境省から「平成の名水百選」に選ばれました。天童市でも、本市自慢の自然・文化・環境など、全国に PR すべきではないだろうか。自慢できる資源の有効活用をどう打ち出すか、積極的に考えていかなければならない。 ２．　起業家支援制度について このような恵まれた環境に、東川町は平成６年度以降、土地開発公社及び民間の宅地分譲が順調に推移し、更に近年は空き家を利用した飲食店のオープンと移住者が増えた。移住者が美しい環境を活かし、文化的な生活を過ごし、また、企業支援を利用した飲食店、パン屋、雑貨店などを開店している。 積極的な呼びかけを、まちぐるみで行っている感じを受けた。 東川町内に新たに企業等が投資する場合は、対象、要件にしたがい、立地・増設支援や緑化支援など、積極性が見られる。 ３．　君の椅子事業について

		町で誕生したお子様に、記念に残る、木製の椅子をプレゼントする取り組みです。実際に手にとって見ると、とてもしっかりとしていて、デザインも毎年変わるようです。販売はしませんが、値段を付ければ相当高いということでした。本市でも、本市で生まれ育つ子どもに、記念のプレゼントがあっても良いと思いました。 ４．　ふるさと納税者に対する宿泊優待制について 株主制度になってもらう、ふるさと納税は納税でなく投資であり、株主と一緒に町の未来を育てていく取り組みをしている。 「写真の町」東川町の特色ある写真甲子園など若者から高齢者まで抱き込んだ活動は、株主に、来てもらい宿泊して、更に一緒になって町づくりを行っている活動は、天童市でも見習う必要がある。 幌加内町 蕎麦の歴史について 蕎麦を活用した６次産業の育成について ねむり雪そばについて 　蕎麦の生産は、昭和４５年からはじまったコメの生産調整により転作作物として蕎麦栽培が急速にはじまった。 現在、遊休地が無く、幌加内そばブランドの確立を目指している。更に、高齢になられても働ける環境である。 幌加内町の農産物低温貯蔵施設｛雪乃御殿｝を見学させていただき、電気冷蔵庫と比べて、冷水温度と貯蔵内温度差が少なく、湿度量が少なくなり、過失は最小限で良く、農産物貯蔵に最適な湿度環境が得られており、電気料金も軽減されて、雪国ならではの環境をうまく利用している。 滝川市 　図書館が市役所内に移転した経緯について 新図書館の特徴と連携事業について 昭和４８年に建てられた図書館は、耐震補強工事やバリアフリー化工事をする必要が求められたが、数多くのアンケート調査、研究会、検討会を重ね、行財政改革により職員数も１８０人ほど削減した関係から、最終決定として、滝川市役所２階に、平成２３年１１月１２日新図書館をオープンした。 図書館のまちなか移転は、市役所内に移転したことで、

		行政との連携が図られ、市行政に必要な資料の収集や保存の一元化が図られた。また、市立病院や商店街にも近く、立ち居より図書館としても、まちなかにぎわいに寄与している。 　子ども向け図書館事業について 絵本のおたのしみ会、音楽会、絵本作家さんとのトークショー夏は「こわ～いお話会」＆きもだめしなど、子どもが喜ぶ企画が年間満載です。 学校との連携も積極的で、読書数１００冊ごとに表彰、５００冊以上で教育長表彰、最高で２７００冊も読書した子どもがいます。 人口４万１千人の中、平成２９年度図書館来館者数は、１２９，５４２人です。本市でも大勢の方が、まず図書館に来てもらえる工夫が必要です。
	結城義己	東川町 　全国地方自治体で地方創生事業として、人口増加策を講じているがなかなか増加しない。 　そのような情勢の中にあって、人口を増加させていることを知り、やはり重要なのは、創造力と実行力であることを痛感した。 幌加内町 　小さな町で財政力もないのに、頑張っている状況を知り称賛したい。反面、土地も痩せ細り、短い夏に適する作物が無いのではないかと思うとき、自然の厳しい中に生きる人々の逞しさをしみじみ感じた。 滝川市 　市庁舎に図書館を置くことが、そのように大きな効果があることは想像できなかった。固定観念は捨てなければならないことを実感した。また、図書館で一番大切なところは、カウンターであるという説明にも感嘆した。
	佐藤俊弥	北海道東川町 　インターネットによるふるさと納税を導入。寄付者には、ひがしかわ株主に、納税ではなく投資を、町の未来と共に歩む目的。新しく誕生した子供は町民全体の喜びであり、君の居場所はここだよと、名称「君の椅子」木製を贈る事業や、保育士と介護士の学費をふるさと納税で行う事など、町と共に成長する。また写真甲子園を開催し、全国から数多くの参加者を募る事業を行ってい

		る。 北海道幌加内町 　人口密度が日本一低い町だが、日本一の蕎麦の産地で作付面積が 3,400 ha、毎年９月に開催される新そば祭りには全国から５万人の来場。降雪のため収穫が終わり翌年の５月まで畑が使えない。立派な蕎麦の実工房があり、保存方法や加工施設の充実など、細部まで行き届いた工場を見学できた。 北海道滝川市 　私立図書館連携事業。誰でも読書ができるよう目の悪い人には、読書補助具や、字が小さくて読みづらい人には、音訳テープやＣＤにまとめた雑誌テープを制作など、親しみやすい図書館をめざす。また菜の花畑が 170 haあり、菜の花まつりが開催される。

※参加議員全員が各調査（視察）先ごとに感想等を記載すること。